

授業時間外学習の促進と授業の質保証

保健体育・日野克博

1. 授業の概要とねらい

保健体育科教育法は，中学校，高等学校教諭免許状（保健体育）の取得に必要な科目であり，保健体育科教育の目標・内容・方法を総合的に学習することになっている．2年生前期の教育法Ⅰでは1単位時間の体育の授業づくりについて，2年生後期の教育法Ⅱでは保健の授業づくりについて，3年前期の教育法Ⅲでは単元を見通した体育の授業づくりについて指導してきた．本授業は3年生後期に開講され，これまでの教育法並びに附属学校での教育実習の経験を踏まえ，学習指導要領から指導内容を精査し，生徒が意欲・関心をもって授業に参加し，思考・判断しながら学習を深めるための教材研究・教材づくりについて指導した．特に，座学として実施する保健と体育理論の授業について，模擬授業を通して，教材研究・教材解釈の力を高めることをねらいとした．

本授業の到達目標は以下のとおりである．

- ・保健体育の授業力向上にむけ，自己学習課題を明確にもち，主体的に学習に取り組むことができる（意欲・関心・態度）
- ・教材研究・教材解釈の力を高め，教室で行う保健体育の授業を効率的・効果的に実践することができる（技能・表現）
- ・模擬授業を省察し，授業のよい点，改善点を論理的に述べるができる（知識・思考）

本年度は，到達目標の達成のために授業時間外学習を促進し，授業の質保証を図ることにした．単に授業時間外学習の量を増やすのではなく，学生の主体的な取組と論理的な思考を促すために次のような工夫を行った．

2. 授業時間外学習の促進の工夫

1) 模擬授業の教材研究・授業づくり

学習指導要領の読み取りと授業づくりの手順について共通理解を深めた後，担当グループの模擬授業（マイクロティーチング）にむけた教材研究・授業づくりは，主に授業時間外に実施するようにさせた．グループ内で時間を調整し，授業の空きコマもしくは課外活動後の時間に，学生が相互に連絡を取り合い，意見交換しながら教材研究や授業づくりに取り組みせるようにした．

2) 模擬授業のふり返り（省察レポート）

模擬授業（マイクロティーチング）の実施後，その授業時間内でグループでの協議や指導助言等を行うものの，個々人がじっくり考えながら模擬授業をふり返る（省察）する時間がないため，その週のうちに省察レポートの課題を与え，授業時間外に実施するようにさせた．なお，省察レポートを書くだけにならないように，表1のレポートルーブリック（評価指針）を学生に説明して，振り返りの質を評価するようにした．

表1 レポートルーブリック（評価指針）

	C：努力を要する	B：概ね満足	A：十分満足
文章構成	文章が構成されていない（だらだらと書いている）	内容が整理され，文章が構成されている（伝えたい内容が絞れている）	+「キーワード・比喩」等を使って，読み手を引きつける表現になっている
内容理解	授業内容を整理している（単なる報告）	これまでの経験や他の学習と比較させたり・関連させて内容を深めている	+授業内容を越えて，論理を展開したり，批判的思考で内容を再検討している
自己主張	授業の感想になっている（主張が感じられない）	自己の意見（主張）の根拠や理由が述べられている．	+これからの自己の課題や目標が述べられている

また、各自が提出した省察レポートは、名前を伏せて（誰が書いたかはわからないようにして）、全員のレポートを印刷し、次時に省察レポートを回読する時間を毎回設定した。他者の省察レポートを読むことで意見の類似点や相違点に気づかせるとともに、読み手の立場を理解させ、省察レポートの質を高めさせるようにした。

3. 授業時間外学習への学生の受けとめ方

授業時間外学習に関する設問を加えて、最終回に授業評価を実施した。表2は、授業時間外学習に関する結果である。

授業づくりや省察レポートを課題としていたこともあり、全受講生が授業時間外学習に取り組み、かつ、有効であったと回答した。内容については授業づくりに関するものが、効果については省察レポートに関する記述が多かった。なお、時間については、本授業のみと他授業も含めて回答している学生がいて必ずしも正確な数値とは言えないが、一定の時間をかけていたことが確認できた。

また、本授業では各自の省察レポートを回読することにしたが、そのことに関する感想として以下のようなコメントがあった。

- ・ レポートによって毎日の振り返りができ、他の人の考えを見ることができて、多様な意見から学びを深めることができました。
- ・ 毎回の各授業に対して、他の人がどう思っているかを知ることができてよかった。
- ・ みんなが思っている感想をそのまま印刷して配布されるのは怖いですが、よいことばかり書かれているわけではないので、でも、これを読むことで、自分たちが考えた案がさらに良くなる可能性もあるので、大切だと感じました。
- ・ レポートの内容を、資料として配付するのが良いと思った。全員の意見が見えるので、意見の共有がしっかりできると思う。

これらのことから、学生は授業時間外学習を通じて授業内容の学びの質を高めていることが確認された。授業時間は限られており、授業時間内における主体的・協働的な学び（アクティブ・ラーニング）と授業時間外学習を促進することで授業の質保証を図っていく必要がある。他方で、各個人へのフィードバックを充実させることが課題として残った。

表2. 授業内容に関する学生の評価

設問	(受講生 18名)
Q1.授業時間外に保健や体育理論に関連した学習をしましたか？	した:18名(100%) していない:0名(0%)
どんなことをした	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導要領の確認(3) ・ 新聞で関連記事を調べる ・ 教材で何がいかひたすら探した(2) ・ 課題についての調べ学習 ・ スポーツの語源について等 ・ 模擬授業づくり(3) ・ 授業準備, 模擬授業準備(2) ・ スポーツ記事などを読んだ ・ 評価規準をみた ・ 教材となりそうなものをネット等で調べた(4)
Q2.授業時間外の学習にどのくらいの時間を使いましたか？(1週間あたり)	平均:72分 最大週:平均200分
Q3.授業時間外学習は有効でしたか？	よかった:18名(100%) よくなかった:0名(0%)
よかった理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知らないことを知ったうえで学べると理解しやすい ・ 学習指導要領をしっかり読めた ・ 振り返りができるし、やってこそ自分のものになる ・ 知識が増えた(3), 知識が広がった(4) ・ グループで集まり、知識を共有することができた ・ グループで授業づくりについて話し合うことができた ・ 授業を批判的な視点でみるできるようになった ・ 自分の今後に役立つ教材が増えた ・ 現状を知り、授業にするならと考えられた ・ 自分の指導に関する振り返りができた(2)

注) ()の数字は同様の回答数を示す

4. 次年度の授業にむけて

単位の実質化にむけて、今後も授業改善を図っていきたい。学生自身が授業に真摯に取り組み、より高い次元の学びを求められるようなしなかけを施していきたい。次年度は、授業時間外学習の充実に向けて、事前課題や予習課題を設定した反転授業方式を導入し、授業時間前の学習を充実させることで、授業時間内における学習の質の向上を図りたい。学生の授業への主体的な参加と学びの質を保証することを今後も心がけていきたい